



2026-09-25 終値時点 ・ 2026年第2四半期までの決算（2026-07-03終了、10-Qは2026-07-29提出）

コカ・コーラ K0

コカ・コーラは値上げではなく販売量で伸びている。最大の地雷は140億ドルの税務訴訟

事業は堅調で、しかも改善しています。第2四半期の売上高は\$13.4B（+6.7%、オーガニック成長率6%）、ユニットケース販売数量は+5%、比較可能ベースの営業利益率は35.6%（前年34.7%）に達し、会社は通期ガイダンスを引き上げました。株価は1年で+36.6%と同業で最も上昇し、今期予想PERは26.6xと同業中央値を約34%上回ります。開示資料の精査で最大の発見は、原文にしか書かれていません。IRSとの移転価格税務訴訟で敗訴すれば、支払済みの預託金\$6.0Bが戻らないうえ、2010-2025年度分として約\$14Bの税金と利息を追加で払う可能性があり、以後の実効税率も毎年約3.8ポイント上がります。これに対し、会社の引当金は\$529Mにすぎません。第11巡回区控訴裁判所は6月25日に口頭弁論を開きましたが、判決はまだ出ていません。また、yfinanceの営業利益は商標の減損などの費用を足し戻しており、フリーキャッシュフローも大幅に過小評価されています。

レーティング・12カ月・ 対 S&P 500 買い 2026-09-30 確定・レー ティングの定義	株価 \$87.81 2026-09-25 終値	時価総額 \$377.8B Consumer Defensive	1年騰落率 +36.6% 年初来 +28.0%	今期予想PER 26.6x EPS 3.30（アナリスト平 均）
次回決算 2026-10- 20 yfinance カレンダー				

01

相場環境

指数：2026-09-25時点で、S&P 500は年初来+13.1%、ナスダックは+16.5%です。直近1カ月ではダウが-3.1%、ラッセル2000が-5.6%で、相場は大型ハイテク株に集中しています。

セクター：生活必需品ETF（XLP）は年初来+7.7%、1カ月では-4.3%です。同社株は年初来+28.0%とセクターとS&P 500を大きく上回り、1年では+36.6%です。

金利とドル：米10年債利回りは5.18%で、1カ月で約52bp上昇しました。ドル指数は1カ月で+1.8。FRBは9月16日に25bpの利上げを実施しました。

同社株への影響（推測）：① 同社株は同業よりバリュエーションが高く、金利上昇が続けば株価評価の重荷になります。② コカ・コーラは利益の大半を海外で稼いでおり、ドル高はガイダンスに織り込まれた売上高約1%、EPS約3%の為替の追い風を削ります。③ S&P 500との1年相関係数は-0.16で、ディフェンシブ性ははっきりしており、相場が荒れる局面でも相対的に下げにくい銘柄です。

指数とセクター

	直近	1週間	1カ月	3カ月	年初来	1年
S&P 500	7,743.41	+1.2%	+0.9%	+5.3%	+13.1%	+17.2%
ナスダック総合	27,068.72	+2.1%	+3.6%	+7.0%	+16.5%	+20.9%
ダウ工業株30種	51,828.62	+0.3%	-3.1%	-0.1%	+7.8%	+12.8%
ラッセル2000	2,837.55	-0.8%	-5.6%	-5.7%	+14.3%	+17.7%
Consumer Defensive セクター ETF	82.06	-0.2%	-4.3%	-2.5%	+7.7%	+8.4%
KO	87.81	-0.5%	-1.9%	+6.9%	+28.0%	+36.6%

金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

VIX 恐怖指数 14.87 1カ月 -0.34	米10年債利回り 5.18% 1カ月 +52bp	ドル指数 100.97 1カ月 +1.80	対 S&P ベータ -0.24 1年相関係数 -0.16	3カ月の超過リターン +1.6% 対 S&P 500
1年の超過リターン +19.4% 対 S&P 500				

マクロと市場の出来事

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-16	FRBが25bp利上げし、政策金利を3.75%→4.00%に。ドットプロットは年内あと1回の利上げを示唆	無リスク金利の上昇 → PERの高いディフェンシブ株のバリュエーションに下押し圧力がかかります。配当利回り2.4%はすでに米10年債利回りを大きく下回っています（推測）。	CNBC
2026-09 中旬	米10年債利回りが2007年以来の高水準に上昇し、ドルも同時に上昇	ドル高 → 海外売上高のドル換算額が目減りします。会社の7月のガイダンスは当時の為替レートを前提とし、EPSで約3%の為替の追い風を含んでいます。ドル高が続けば、この追い風は縮小します（推測）。	CNBC

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-09	米国とイランの衝突が激化し、原油価格が1バレル\$100を突破	エネルギー価格 → PETボトル、輸送、ボトリングのコストが上昇します（推測）。第2四半期のプレスリリースもすでに「投入コストの上昇」が利益率の改善を一部相殺したと述べています（8-K、2026-07-28）。	AP / The Columbian

02

イベント

2026-07-29

好材料 レーティング

決算後、少なくとも8社が目標株価を引き上げ

Jefferies \$95 → \$104、TD Cowen \$90 → \$100、RBC \$87 → \$96、JPMorgan \$90 → \$96、Piper Sandler \$88 → \$95、Wells Fargo \$90 → \$95など。レーティングは据え置きです（yfinanceのレーティングデータ）。

出典：yfinance 评级变动

2026-07-28

好材料 決算

第2四半期は予想超え、通期ガイダンスを引き上げ

売上高+7%、オーガニック成長率6%、ユニットケース販売数量+5%（インド、中国、米国、ブラジルがけん引）。GAAPベースのEPSは\$1.03（+16%）、比較可能EPSは\$0.97（+11%）で、コンセンサスを4.1%上回りました（yfinance）。通期ガイダンスも引き上げ、オーガニック売上高成長率は4-5%から約5%へ、比較可能EPS成長率は8-9%から9-10%へ、フリーキャッシュフローは約\$12.4Bとしています（8-K、2026-07-28）。弱い点もあります。アジア太平洋の価格/ミックスは-9%で、インドではシェアが低下しました。

出典：8-K item 2.02（2026-07-28）

2026-07-16

中立 8-K

fairlifeにランサムウェア攻撃、米国工場が一時停止

8-Kによると、攻撃者は一部のシステムに侵入して一部のデータを持ち出し、米国の生産ラインが停止しました。カナダは影響を受けていません。10-Q（7月29日）の続報では生産ラインの大半が再稼働しており、会社は財務状況に重大な影響は生じておらず、今後生じる可能性も低いとしています。

出典：8-K item 8.01（2026-07-16）；10-Q（2026-07-29）

北米部門プレジデントのJennifer Mann氏が退任、CFOが暫定で兼務

Mann氏は7月31日に退任し、2027年4月まで上級顧問を務めます。社長兼CFOのJohn Murphy氏が8月1日から北米事業を暫定的に統括しています（8-K）。北米は第2四半期に比較可能営業利益の伸びが最も大きかった地域（+12%）ですが、後任は決まっていません。

出典：8-K item 5.02（2026-06-25）

IRS税務訴訟、第11巡回区控訴裁で口頭弁論。判決待ち

同社株にとって最大の単一リスクで、詳細は決算書チェックの項にあります。弁論に対するメディアの見方は割れています。Bloomberg Taxは判事が「コカ・コーラ寄り」とみる一方、Law360は判事がコカ・コーラの主張の一部に疑問を呈したと報じました。判決の時期は不明で、結果は二者択一です。勝訴なら預託金\$6.0Bと利息を回収でき、敗訴なら約\$14Bの追加負債と実効税率の上昇に直面します（推測した影響の経路は決算書チェックの項を参照）。

出典：10-Q（2026-07-29）；Bloomberg Tax；Law360

アフリカのボトリング事業をCCHBCに売却、年内完了の見通し

赤は好材料、緑は悪材料（中国式の配色）。灰色は中立、青はまだ判断できないもの。
2025年10月に契約し、完了後は連結対象から外れます。CCHBCは6年以内に残り25%を取得するオプションも持っています。2025年にはこれに関連して\$1,274Mの減損を計上しました（その他収益に計上）。売却後は売上が減り、アナリストが2027年の売上高をほぼ横ばい（+0.3%）と予想する理由の一つになっています。会社は通期の比較可能

過去90日のアナリスト評価の変更（12件、直近12件を表示）

日付	機関	動き	評価	目標株価
2026-07-30	Argus Research	main	Buy → Buy	91 → 97
2026-07-30	Barclays	main	Overweight → Overweight	91 → 93
2026-07-29	JP Morgan	main	Overweight → Overweight	90 → 96
2026-07-29	TD Cowen	main	Buy → Buy	90 → 100
2026-07-29	Piper Sandler	main	Overweight → Overweight	88 → 95
2026-07-29	Wells Fargo	main	Overweight → Overweight	90 → 95
2026-07-29	RBC Capital	main	Outperform → Outperform	87 → 96
2026-07-29	Jefferies	main	Buy → Buy	95 → 104
2026-07-21	Barclays	main	Overweight → Overweight	89 → 91
2026-07-16	UBS	main	Buy → Buy	92 → 98
2026-07-14	Citigroup	main	Buy → Buy	91 → 97
2026-07-10	B of A Securities	main	Buy → Buy	90 → 95

yfinance の集計で、個別には検証していません。up 引き上げ、down 引き下げ、main 据え置き、init 新規、reit 再表明。

レーティングとスコアカード

当社のレーティング

買い 今後12カ月のトータルリターンがS&P 500を10~20ポイント上回ると予想・スコアカード加重点 3.05

発行者の判断: 買い。ルールによる推奨（中立、スコアカード加重点 3.05）より1段階上です。

ルールはバリュエーションを1点としました。今期PERは26.6倍で、同業中央値より約34%割高です。それでも、このプレミアムは正当化できると考えます。

値上げではなく数量で伸びている。 単位ケース数量は+5%、オーガニック成長率は6%、比較可能ベースの営業利益率は35.6%（前年34.7%）に上がり、会社は通期見通しを引き上げました。

同業でいちばん安定したキャッシュ製造機。 営業利益率34.9%は同業トップで、負債は減っています。1年の最大ドロウダウンはわずか-7.9%、S&P500との1年相関係数は-0.16で、相場が荒れても崩れにくい銘柄です。

最大のリスクは見えている。 IRS との移転価格訴訟に負ければ、約140億ドルの追加税額と利息、毎年約3.8ポイントの実効税率上昇を負います。判決はまだです。勝訴すれば約65億ドルの預託金と利息が戻り、最大の下振れリスクが消えます。

判断を変える条件: IRS 訴訟での敗訴、数量成長の明確な鈍化、成長が伴わないままバリュエーションのプレミアムが広がり続けること。いずれも格下げにつながります。

レーティングは公開情報にもとづくリサーチ上の見解で、特定の個人の資産状況を前提にしたものではありません。ルールと分布はレーティングの定義



リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示します。5項目の加重点から推奨レーティングを出し、発行者が確認して確定します。

この点数の理由

ファンダメンタルズ 4 / 5

売上高成長率6.7%（オーガニック6%）は3点の区分に入ります。比較可能営業利益率は前年同期比0.9ポイント改善（35.6%対34.7%）しており、ルールに従い1点加点しました。値上げだけでなく販売数量の伸び（+5%）が成長を支え、通期ガイダンスも引き上げられています。5点にしなかったのは、成長率が10%に届かず、アジア太平洋の価格/ミックスがマイナスだからです。

第2四半期売上高+6.7%、オーガニック+6%、販売数量+5%。比較可能営業利益率35.6%（前年34.7%）

バリュエーション

1 / 5

今期予想PERは26.6xで、同業中央値19.8xを約34%上回り、2点の区分に入ります。PEGは約3.9（ $26.6 \div 2027\text{年EPS予想成長率}6.8\%$ ）で2.5を超えるため、ルールに従い1段階引き下げました。2026年の約10%のEPS成長率で計算しても、PEGは約2.7です。コカ・コーラはもともとプレミアム評価を受けてきました（営業利益率34.9%は同業で最高）が、現在のプレミアムは成長の加速ではなく、主に過去1年の急騰によるものです。

今期予想PER 26.6x、同業中央値19.8x。PEG約3.9

モメンタム

4 / 5

ほとんどの期間で市場を上回っています。1年で+19.4ポイント、年初来で+14.9、3カ月で+1.6で、下回っているのは6カ月（4.2ポイント）だけです。株価は200日移動平均を10.4%上回り、50日移動平均とほぼ同水準、1年高値からは-4.0%で、1年の最大ドロウダウンはわずか-7.9%です。

超過リターン 1年+19.4%、年初来+14.9%、6カ月-4.2%

決算の質

4 / 5

主要指標は健全です。TTMのフリーキャッシュフロー/純利益は約1.0（推定）、売上債権回転日数は約25日（推定）です。比較可能ベースの定義に変更はなく、一時的な利益（第2四半期の有価証券関連利益\$320M）と費用の両方を除外しており、扱いは対称的です。1点減点したのは、買収資産の減損が繰り返されているためです。BodyArmorの商標は2024年に\$760M、2025年にさらに\$960Mを減損し、2024年にはfairlifeの条件付対価を\$3.1B再評価しました（10-K）。いずれも比較可能ベースでは除外されていますが、過去の買収が価値を削り続けていることを示しています。また、売掛債権のファクタリングとサプライチェーン・ファイナンス（確認済み\$1.43B）により、売掛金と買掛金の回転指標は良く見えます。減点はしませんが、把握しておくべき点です。

BodyArmor減損 \$760M + \$960M。TTMのFCF約\$14.3B対純利益\$14.3B（推定）

リスク

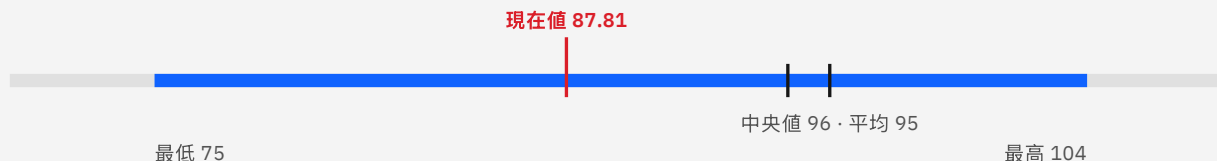
3 / 5

5点から2点減点しており、いずれもIRS税務訴訟によるものです（10-Q、2026-07-29）。① 偶発債務の規模が大きい。支払済み預託金\$6.0B + 未収利息\$514M + 2010-2025年度分の潜在的な追加額約\$14Bで、合計約\$20.5B。時価総額（\$377.8B）の約5.4%に当たり5%の基準を超えますが、引当金は\$529Mにとどまります。② 判決が出ていません。敗訴すれば実効税率が毎年約3.8ポイント上昇し（2026年上半期にも潜在負債が約\$0.9B増加）、将来の毎年の利益に響きます。その他の項目は減点なしです。1年ボラティリティは18.8%、最大ドロウダウンは-7.9%。保証債務\$874Mは小さく、負債構成ウォール街の見方も健全で、長期債務は\$42.1Bから\$37.0Bに減少し、CP残高はゼロです。

評価の分布（24社）

■ 強い買い 7 ■ 買い 12 ■ 保有 4 ■ 売り 0 ■ 強い売り 1

目標株価のレンジ



yfinance の集計、アナリスト23人、更新時期は不明。分布を示すだけで、目標株価を裏づけるものではありません。

決算を読み解く

四半期業績

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後EPS	営業CF	フリーCF
2025-06-27	\$12.5B	+12.6%	+1.4%	62.4%	34.1%	\$3.8B	0.88	\$3.8B	\$3.4B
2025-09-26	\$12.5B	-0.6%	+5.1%	61.5%	32.0%	\$3.7B	0.86	\$5.0B	\$4.6B
2025-12-31	\$11.8B	-5.1%	+2.4%	60.0%	15.6%	\$2.3B	—	\$3.8B	\$2.9B
2026-04-03	\$12.5B	+5.5%	+12.1%	63.0%	35.0%	\$3.9B	0.91	\$2.0B	\$1.8B
2026-07-03	\$13.4B	+7.3%	+6.7%	62.9%	34.9%	\$4.4B	1.03	\$5.5B	\$5.1B

出典：SEC XBRL（2026-07-03 季度データ取自 10-Q/8-K 原文（2026-07-28/29）, companyfacts API 截至 2026-09-27 尚未收录该 10-Q）。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー－設備投資。第4四半期の EPS はXBRL に欠けることが多く、会社発表の数字を優先します。

バリュエーション

基準	EPS	PER
GAAP、直近12カ月	3.33	26.4x
調整後、直近12カ月（アナリスト基準）	3.23	27.2x
今期予想（0y）	3.30	26.6x
来期予想（+1y）	3.53	24.9x

2026年のEPS予想は\$3.25-\$3.34、2027年は\$3.40-\$3.60で、予想のばらつきは小さくなっています。会社の通期の比較可能EPS成長率ガイダンスは9-10%で、うち約3ポイントは為替によるものです。配当は四半期\$0.53、配当利回りは約2.4%です。注意点として、今期予想は調整後EPSです。IRS訴訟で敗訴すれば、実効税率の上昇がGAAPベースと調整後の両方のEPSを直接押し下げます（ガイダンスの実効税率19.9%にこの影響が含まれていないことは、8-Kの脚注に明記されています）。

現在の株価で計算。予想 EPS は yfinance が集計したアナリスト平均で、調整後ベースです。

決算書が語っていること

売上高、純利益、GAAPベースのEPS、営業キャッシュフロー、売掛金、棚卸資産は、XBRLと四半期ごとに照合して一致しました。相違点と注意点は以下のとおりです。

第2四半期の数値はXBRLではなく原文から： 2026-09-27時点で、SECのcompanyfacts API には7月29日提出の第2四半期10-Qがまだ反映されていません。このため四半期表の2026-07-03の列は、10-Qとプレスリリースの原文から手作業で抜き出しました。売上高 = 上半期\$25,852M - 第1四半期\$12,472M、営業キャッシュフロー = 上半期\$7,543M - 第1四半期\$2,021M。

yfinanceの営業利益は「その他の営業費用」を足し戻している： 2025年のGAAP営業利益は\$13.76Bですが、yfinanceは\$14.91Bと表示しています。2025年第4四半期はGAAPで\$1.84B（営業利益率15.6%）、yfinanceは\$2.86B（24.2%）です。差額の主因はBodyArmor商標の減損\$960Mです。2024年は差がさらに大きく（GAAP \$9.99B対yfinance \$14.02B）、主因はfairlifeの条件付対価の再評価\$3.1Bです（10-K、2026-02-20）。

年間の営業キャッシュフローは2件の一時的な支払いで押し下げられている：2024年にIRS 税務訴訟の預託金\$6.0B（2024-09）、2025年3月にfairlifeの条件付対価\$6.17Bを支払いま した（10-K、10-Q）。したがって、yfinanceの年間フリーキャッシュフロー（2024年 \$4.7B、2025年\$5.3B）は平常の水準を表していません。直近4四半期の営業キャッシュ フローは\$16.3B、設備投資は\$2.1Bで、フリーキャッシュフローは約\$14.3B（推定）です。

第2四半期のその他収益\$370M：主に有価証券の実現・未実現利益\$320Mで、ほかにアフリ カのボトリング事業の減損戻入れ\$66Mがあります。これらは比較可能EPSから除外されて います（比較可能\$0.97 < GAAP \$1.03）（10-Q）。

2025年の利益に含まれる大型項目：CCEP株式の一部売却益\$331M、アフリカのボトリング 事業の減損\$1,274M、ナイジェリアの完成品事業の売却損\$393Mで、いずれもその他収益 に計上されています（10-K）。

負債は減少：長期債務は\$42.1B（2025年末）から\$37.0Bに、CPは\$1.5Bからゼロに減りま した（10-Q）。8.01項や2.03項による社債発行の開示はありません。

原資料にしか書かれていないこと

IRSとの移転価格税務訴訟（10-Q、2026-07-29）：

2007–2009年度分の税金と利息\$6.0Bを支払済み（2024-09-10）で、その他の非流動資 産に計上しています。ほかに未収利息\$514Mがあり、勝訴すれば返還されます。

敗訴した場合、2010–2025年度分の潜在的な追加税額と利息は約**\$14B**（2025年末時 点）で、2026年上半期にさらに約\$0.9B増えました。

同じ方法が引き続き適用されれば、2026年以降の実効税率は約**3.8ポイント**上昇しま す。

現在の引当金は**\$529M**のみで、会社は「勝訴の可能性の方が高い」と判断しています。

控訴審は2026-06-25に口頭弁論が開かれ、判決は出ていません。会社は2025年10月に 第8巡回区控訴裁が3M事件で下した有利な判決を、自らの立場の裏付けとして挙げてい ます。

アフリカのボトリング事業の売却：2026年末までに完了する見通しで、完了後は連結対象 から外れます。CCHBCは6年以内に残り25%を取得するオプションを持っています（10- Q）。

保証：第三者の債務保証\$874M、うち\$61MはVIE関連です（10-Q）。

サプライチェーン・ファイナンスと売掛債権ファクタリング：サプライチェーン・ファイナ ンスで確認済みの買掛金は\$1.43B、売掛債権ファクタリングの第2四半期のコストは\$14M です（10-Q）。これにより売掛金と買掛金の回転指標が良く見えます。

fairlifeのランサムウェア事件：生産ラインの大半が再稼働し、会社は影響は重大でないと判 断しています（10-Q）。

非GAAPの定義：変更なし。

データベンダーの誤り

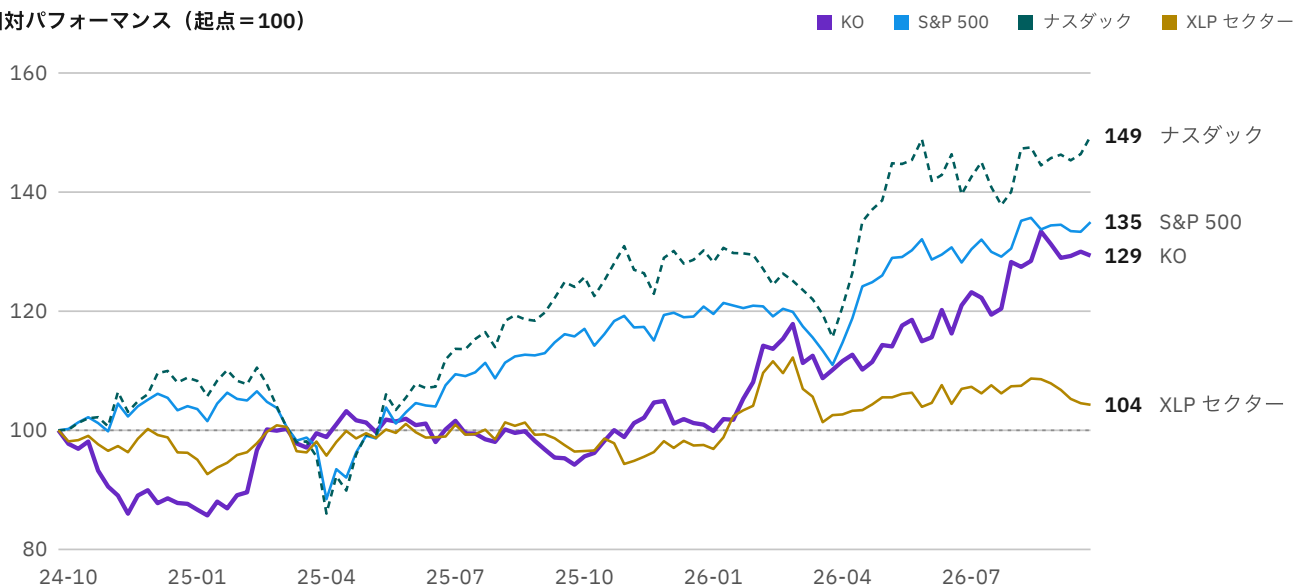
項目	yfinance	原資料（計算方法つき）
freeCashflow	\$5.2B	直近4四半期で約 \$14.3B = 営業キャッシュフロー \$16.3B – 設備投資\$2.1B（第2四半期は10-Qの上 半期の数値から第1四半期を差し引いて算出、推 定）。yfinanceの数値は2025年通期の\$5.3Bに近 く、同年にはfairlifeへの一時的な支払い\$6.17Bが 含まれています

項目	yfinance	原資料（計算方法つき）
forwardPE	24.9x	2027年 のEPS \$3.53を使っています。今期（2026年）のEPS \$3.30で計算すると 26.6x です
Operating Income（通期）	2025年\$14.91B、2024年\$14.02B	GAAPでは \$13.76B 、 \$9.99B 。yfinanceはその他の営業費用（BodyArmorの減損、fairlifeの再評価など）を足し戻しています（10-K、2026-02-20）
Operating Income（2025年第4四半期）	\$2.86B（利益率24.2%）	GAAPでは \$1.84B （利益率15.6%）＝通期\$13.76B－第1～第3四半期\$11.92B
年間フリーキャッシュフロー	2024年\$4.7B、2025年\$5.3B	数値自体は正しいものの、それぞれIRSへの預託金\$6.0Bとfairlifeの条件付対価\$6.17Bという一時的な支払いを含んでおり、平常の水準を表していません
dividendYield	2.41	パーセント表示で、2.41%を意味します（四半期\$0.53）

05

株価の推移

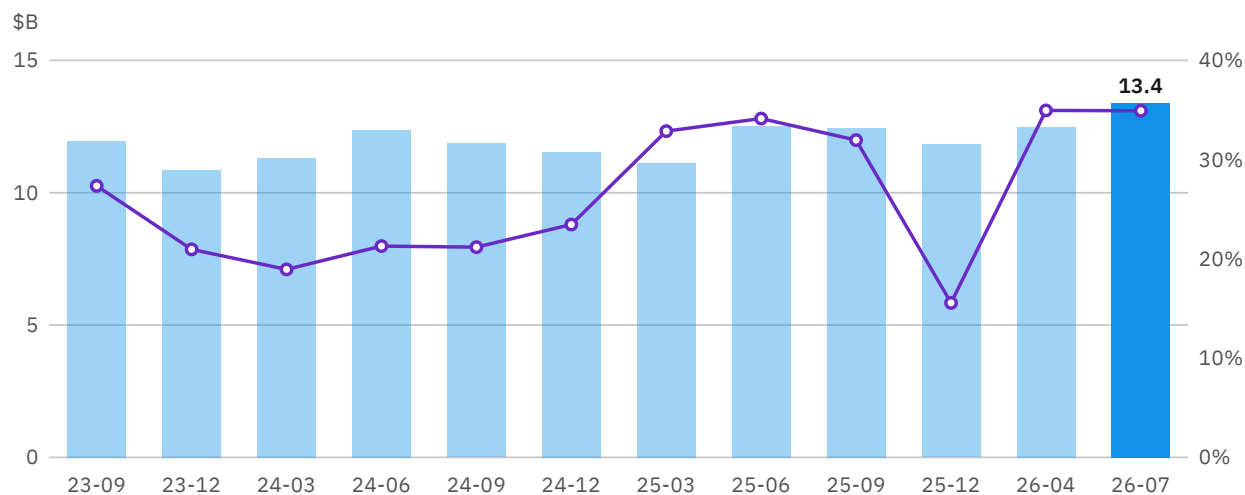
相対パフォーマンス（起点＝100）



週次終値（調整後）、2024-09-29 を100として指数化。右端の数字は期末の値です。

四半期売上高と営業利益率

■ 売上高（左軸）
 ■ 営業利益率（右軸）



直近12四半期。出典：SEC XBRL。

同業比較

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER実績	PER今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
KO	Coca-Cola Company (The)	\$377.8B	-1.9%	+28.0%	+36.6%	26.4x	26.6x	+6.7%	61.9%	34.9%
PEP	Pepsico, Inc.	\$175.7B	-8.6%	-7.6%	-4.3%	16.9x	15.0x	+6.4%	54.2%	16.8%
KDP	Keurig Dr Pepper Inc.	\$43.5B	-0.8%	+16.9%	+28.3%	32.3x	13.9x	+75.6%	51.0%	12.9%
MNST	Monster Beverage Corporation	\$84.5B	-9.8%	+12.5%	+33.5%	39.9x	37.5x	+20.2%	55.5%	29.2%
PG	Procter & Gamble Company (Th	\$339.6B	+0.8%	+4.3%	-1.1%	22.1x	21.0x	+1.5%	50.9%	22.1%
MDLZ	Mondelez International, Inc.	\$76.9B	-4.4%	+13.8%	-0.3%	22.1x	19.8x	+4.1%	31.1%	22.0%
同業中央値		\$84.5B	-4.4%	+12.5%	-0.3%	22.1x	19.8x	+6.4%	51.0%	22.0%

yfinance の集計で、決算書とは照合していません。今期PER＝株価 ÷ 今期（0y）予想 EPS。forwardPE が来期ベースになる問題を避けています。同業の出典：--peers。中央値は本銘柄を除きます。

比較対象は飲料・生活必需品企業から手作業で選びました：PEP、KDP、MNST、PG、MDLZ。同社株の今期予想PERは26.6xで、これより高いのはMNST（37.5x）だけです。同業中央値19.8xを約34%上回ります。営業利益率34.9%は同業で最も高く、原液の販売とフランチャイズ・ボトラーを組み合わせた資産の軽いモデルがもたらしたものです。売上高成長率6.7%は同業中央値6.4%と同程度です。1年の株価上昇率+36.6%は同業で最高で、最大のライバルであるPEPは1年で-4.3%、PERは15.0xにすぎず、両社のバリュエーション格差は大きい水準にあります。注意点として、KDPの売上高+75.6%はJDE Peet'sの買収によるもので、PERと成長率は比較できません。同業データはyfinanceの集計値で、各社の決算書とは個別に照合していません。

スマートマネー

誰が持ち、誰が売買しているか：追跡している人物のうち 2 人が KO を保有

人物	データ	報告期間	評価額 / レンジ	ポートフォリオ比率	四半期の変化
ウォーレン・バフェット	13F 保有	2026-06-30	\$32.5B	10.9%	据え置き
レイ・ダリオ	13F 保有	2026-06-30	\$18M	0.1%	買い増し

各人物の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産開示から。13F には約45日の遅れがあります。スマートマネー→

この先の注目点

2026-10-01

四半期配当\$0.53の支払い

権利落ち日の9月15日は通過済みです（yfinanceのカレンダー）。

2026 年 10 月下旬

次回FOMC

金利とドルの動向を確認します。正確な日程はFRBのスケジュールで確認してください。

2026-10-20

2026年第3四半期決算

コンセンサスはEPS \$0.88、売上高\$12.89B（yfinance）。会社は第3四半期について、比較可能売上高で約1%の為替の追い風と約1%の買収・事業売却による押し下げ、比較可能EPSで約3%の為替の追い風を示しています。注目点は、販売数量+5%が続くか、アジア太平洋の価格/ミックス、北米の新プレジデント人事、ドル高が為替の追い風に与える影響です。

2026 年底前

アフリカのボトリング事業の売却完了

完了後は売上高の基準が下がり、2027年の売上高予想はほぼ横ばいです。売却損益の計上方法に注目します。

待定

IRS税務訴訟に対する第11巡回区控訴裁の判決

同社株最大の単一変数です。勝訴なら預託金\$6.0Bと利息を回収でき、敗訴なら約\$14Bの追加負債と毎年約3.8ポイントの実効税率上昇に直面します。

リサーチ上の記録であり、投資助言ではありません。

出典

株価・アナリストデータ: yfinance + SEC EDGAR、2026-09-25 終値時点、遅延あり。財務データ: SEC EDGAR（XBRLと原資料）。マクロとニュースは各項目のリンク先を参照。赤が上昇、緑が下落。

ウェブ検索: Bloomberg Tax: 控訴審の口頭弁論、Law360: 判事がコカ・コーラの主張に疑問、Tax Notes、CNBC: FRBの政策決定、CNBC: 9月17日の市場、AP/The Columbian: 原油価格。

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。